

## 「台風をつくる(1)」

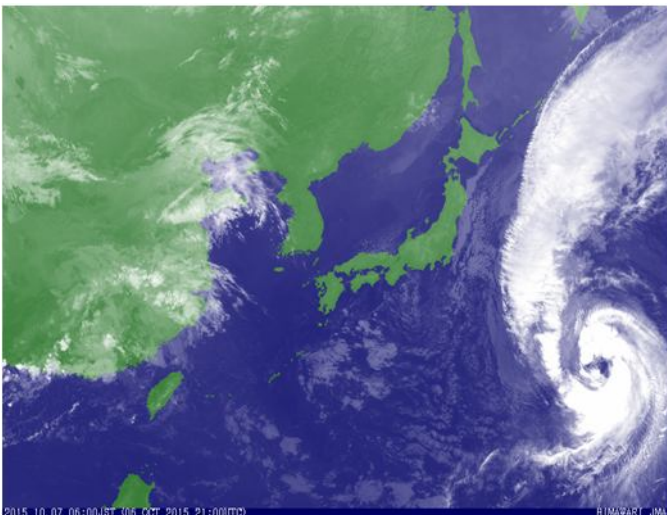
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

5年生の2学期に、台風を扱う単元がある。日本列島は、世界有数の台風来襲頻度が高い地域である。台風のことを学ぶのは、実際の生活に役立つことで、防災意識を高めることにもつながる。

台風を扱う学習では、「台風の特徵」「通過に伴う風や雨量の変化」「進路の予測」「被害や恩恵」などの内容が含まれる。いずれも、実物の台風を観察して、学習を進めることはできない。私はこのうち「台風の特徵」に着目した。台風の特徴とは・・・

- ・ 温かい海水を「原料」として、発生・発達する、主として積乱雲の巨大な雲塊である。
- ・ 季節によって進路が異なる。
- ・ 海上(地上)付近では、反時計回りに回転しながら進む。
- ・ 進路と回転方向が重なる、右側が風雨とも強い。
- ・ 勢力を増すと、中心に目が形成される。
- ・ 目の周辺ほど、雲(積乱雲)が厚く、風雨が強い。
- ・ 大型の台風では、顕著な雲の腕がある。

細かい特徴は、ほかにもたくさんある。台風は、あまりにも巨大なため、地上からの観察では、全体像は見えない。主として衛星画像に頼るほかない。しかし、衛星画像は、基本的に上から見た台風であり、平面的な観察しかできない。



「台風26号の衛星画像」雲は平面的にしか見えない。

台風の構造で大切なことは、「中心に目があること、目の周囲の雲(積乱雲)が厚いこと。」である。そのことを実感させるために、台風の模型づくりを試してみることにした。材料・道具は以下の通りである。

- ・ 青い画用紙に印刷した日本域地図
- ・ 板目紙
- ・ 脱脂綿(ほんの少し)
- ・ スティック糊
- ・ 楊枝
- ・ 台風の資料(衛星写真、進路予測など)



作り方は簡単で、糊で台紙に脱脂綿を貼ってゆくだけである。一気に大量に貼らず、少しずつ千切って貼るのがコツである。



中心に「台風之眼」を、丸く作るのが難しい。もっと難しいのは、中心付近の雲を厚く仕上げることだ。台風周辺の薄い雲は、あらかじめ薄く糊を塗ったところに、脱脂綿をポンポン押しすと良い。さて、どんな傑作の台風ができたのだろうか? (つづく)